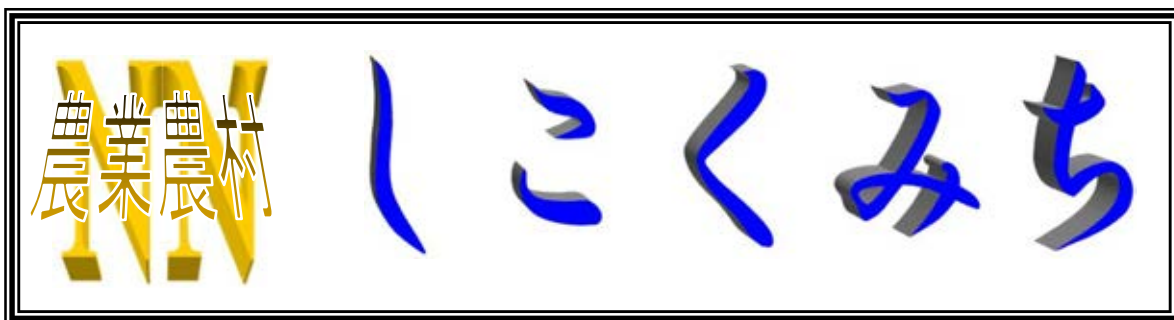


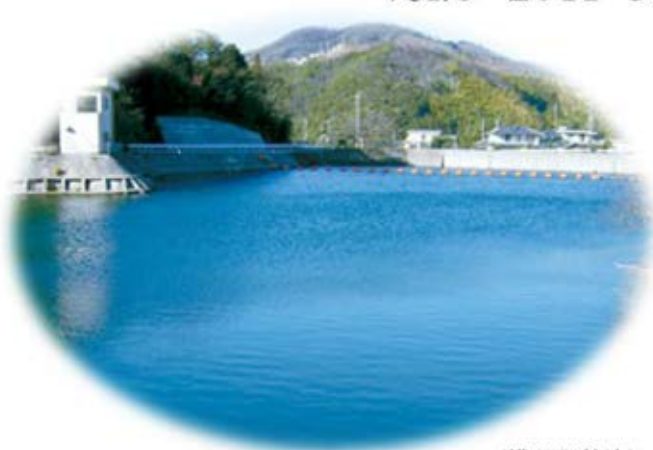
四国土地改良調査管理事務所だより



Vol.8 2011 3



(面河ダム)



(横谷調整池)



(志河川ダム)



(佐古ダム)

目次

INDEX

農業を支える運動について	1
国営かんがい排水事業 道前道後平野地区について	4
ストックマネジメントについて	10
ため池百選	13
文化・歴史	15

農林水産省
中国四国農政局

農業を支える運動について

はじめに

日本の食料自給率は先進国の中で一番低く、海外の気候変動等により食料の価格が高騰し、日本の食料事情に大きく影響するため、日本の食料自給率を上げる必要があります。

そのためには、朝食欠食の改善による米の消費拡大、大豆加工食品について国産大豆の使用割合の大幅な引き上げやパン食やめん食についての国産小麦・米粉の活用拡大などに取り組むことが必要であることを、本誌「しこくみち」の先号(第7号)でお伝えしました。

本号では、国産の農産物需要を高めるために、地域・団体の方々が農業を応援している事例についてご紹介します。

食料自給率向上に向けた運動

世界規模で食料問題がますます深刻化する中、国産農産物の消費拡大は食料自給率向上を実現する最も有用な手段であると考えられてきています。そのためには、消費者の啓発と意識改革にとどまらず、「生産」「流通」「消費」のそれぞれの現場で問題意識を認識・共有し、消費者・企業・団体・地方公共団体など、全ての国民が一体となって国産農産物の消費拡大を具体的に推し進めることが重要な課題となっています。

これらの課題の実現を目的として、農林水産省は平成20年度より「食料自給率向上に向けた国民運動推進事業」を立ち上げ、その基盤となる組織として「FOOD ACTION NIPPON(フード・アクション・ニッポン) 推進本部」を発足し、平成22年3月時点で、企業・団体・行政等約3,000社が賛同しています。



米粉を使用したパン

「フード・アクション・ニッポン」の活動の一環として、米粉倶楽部員283社（平成22年3月末現在）の協力の下で、米粉の認知拡大と消費拡大に向けた活動を実施。

フード・アクション・ニッポンの趣旨に賛同した企業の取り組み事例

モスフードサービス

平成20年12月より、国産肉(牛・豚合い挽き肉)を100%使用するなど国産食材にこだわったハンバーガー「とびきりハンバーグサンド」シリーズを発売。発売開始後11ヶ月で2000万食を突破。



リンガーハット

平成21年10月より、リンガーハットグループ全554店舗において、ちゃんぽんに使用する野菜1万2400t全量を国産化。また、国産野菜を100%使用したぎょうざの皮には米粉を配合。



(フードアクションニッポン公式サイトより抜粋)

農業を応援する様々な取組(地域主体)

前頁の「フード・アクション・ニッポン」の運動については、農林水産省が基盤となる組織を立ち上げましたが、地域住民・団体自らが主体となって、地元の農業を応援するために様々な取組がされています。



たかしま有機農法研究会（滋賀県高島市）は、2009年度より、関東・東海地域の米穀店の皆様と共同で、田んぼの環境づくり基金のプロジェクト（名称：Rice 8 Action〈ライスエイトアクション〉）を開始しました。

ライスエイトアクションに参加している米穀店で「たかしま生きもの田んぼ米」をご購入いただくと、売上金の一部がたかしま有機農法研究会へ生物多様性保全のための基金として還元されます。

「たかしま生きもの田んぼ米（平成21年産）」を1kgご購入いただくごとに、8円が基金として積み立てられます。（たかしま有機農法研究会ホームページより抜粋）



総合生協(新潟県総合生活協同組合)の牛乳は、新鮮で良質の牛乳を低い殺菌温度で処理することによって、しぼりたての味わいをお届けしています。

低い殺菌温度で処理するには、原乳の細菌数が少ないことが条件となります。

そのため、生産者は、乳をしぼる前後にきれいなタオルで乳房や乳首をていねいに拭いてあげ、乳房を清潔に保つことを心がけています。毎日使うこのタオルが、とても大切で、重要な役割をはたしているのです。

総合生協では資源の有効活用もかねて、毎年牛乳の生産者へタオルを届ける活動を行なっています。（新潟県総合生活協同組合ホームページより抜粋）

日本の農林水産物をこよなく愛でる粋なお客様のため、カロリベースで日本産食材の使用量が50%を超えるお店で緑提灯を飾っています。

地場・国産品をカロリベースで50%使っていれば★1個付けた緑提灯を掲げる、60%ならば★★、という風に★を1個ずつ増やし、90%以上ならば★★★★★です。（緑提灯応援隊ホームページより抜粋）

※緑提灯のお店は、平成23年2月時点で全国で3,000店以上が登録されています。





2007年1月、高梁市内のコープ産直たまごの生産者を襲った鳥インフルエンザの被害は、すべての養鶏を処分するという大きなものになりました。

おかやまコープでは、このような鳥インフルエンザなど家畜疾病の発生による被害に対して、公的補償の及ばないところを補完し、事業再開に向けた支援をすることを目的とした「コープ産直たまご生産者支援基金」を2007年に設立しました。

共同購入、店舗でコープ産直たまごをご購入いただくと、1パックにつき1円が「基金」に募金されます（募金額は商品代金に含まれます）。

私たちにとって、欠かすことのできない大切な産直商品「コープ産直たまご」の生産者を守り、支援する「基金」へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

（生活協同組合おかやまコープホームページより抜粋）

シブヤ米は、若者が食や農業に興味を持つキッカケを作るために始めた「ノギャルプロジェクト」から生まれたお米で、品種は「あきたこまち」です。

藤田志穂(実業家)の呼びかけで集まったノギャルは、ギャル雑誌で活躍するモデルやギャルの子達が参加するプロジェクトチーム！渋谷のギャルが作るお米として、秋田県大潟村の有限会社瑞穂と共同で、2009年3月からスタートしました。

シブヤ米の産地として選んだ秋田県は、若者の街「渋谷」の象徴ともいえる「ハチ公」が、秋田出身の秋田犬であったことから何かの縁があると感じ秋田にしました。

（シブヤ米オフィシャルサイトより抜粋）



新たな力で農業を応援する「ノギャル」



シブヤ米「ライスボディ」1.9合



Jリーグチームのコンサドーレ札幌では、選手が農作業を行うことで、子どもたちが食べ物のありがたみや関心を強めてくれることを目的に、コンサ土・農園（コンサ・ド・ファーム）を開園し、JA北海道と協力して馬鈴薯やスイートコーンを栽培しています。

（コンサドーレ札幌オフィシャルウェブサイトより抜粋）

上記以外にも誌面の都合で掲載できなかった様々な取り組みが全国で展開されています。

消費者等が応分の負担を伴って生産者等を支える動きや、これまで農業・農村との関わりが少なかった方々が、農の魅力や意義について理解・共感を持ち、農業・農村を活性化する新たな原動力となって、積極的に活躍する動きが現れてきています。

国営かんがい排水事業 道前道後平野地区について

はじめに

四国土地改良調査管理事務所では、平成20年度に国営かんがい排水事業「道前道後平野地区」で建設中の志河川ダム（愛媛県西条市丹原町）の試験湛水業務を継承するため、松山市に道前道後支所を設置しました。

この度、志河川ダムの試験湛水も無事終え、平成23年3月31日には道前道後支所は閉所し、平成元年度から開始された事業も工事完了する運びとなりました。

ここでは、道前道後平野地区の事業の経緯、工事内容等についてご紹介します。

旧事業(S32～S42)

本地区は、瀬戸内海に面し雨量の少ない地域にあるため、河川の流量が乏しく、昔からかんがい用水が不足し、しばしば干ばつの被害を受けていました。このため、先人達はため池を築くなど用水確保に涙ぐましい努力を重ねてきました。

特に、昭和20年代の食糧難もあって恒久的な用水対策が強く望まれ、昭和27年度に道前平野と道後平野の両平野の関係者が一体となり、仁淀川水系（高知県側へ流水）に面河ダムを建設し、農業用水を確保するとともに、併せて発電、工業用水も含めた総合開発計画が決定されました。

昭和32年度に国営かんがい排水事業として道前平野〔西条市（旧西条市、旧東予市、旧小松町、旧丹原町）〕及び道後平野〔松山市、伊予市、東温市（旧重信町、旧川内町）、松前町、砥部町〕の農地13,200ha（水田11,780ha、樹園地1,420ha）を対象に、かんがい用水（かんがい期間：6月6日～10月6日）を確保するために、旧事業が昭和32年度に着工し、昭和42年度に事業完了しました。

旧事業の経緯表

年 度	事 項
昭和27	道前道後平野農業水利事業計画概要発表（愛媛県）
〃 31	国営かんがい排水事業全体実施設計
〃 32	事業の着工
〃 33	面河ダム水没補償調印、面河ダム関連道路工事着工
〃 35	高知県よりの分水調印、面河ダム着工
〃 38	面河ダム完成
〃 39	工業用水通水開始
〃 42	事業完了

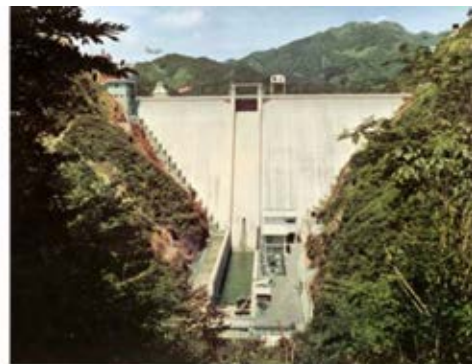
※国営に附帯する県営事業は、道前地区が昭和39年度に、道後地区が昭和38年度にそれぞれ着工し、昭和44年度に完了した。



位置図

旧事業で建設された施設一覧表

区 分	施 設 内 容
共同施設	承 水 施 設 面河第一承水堰など11ヶ所
	承 水 路 総延長8.5km（内 隧道8.3km）
	ダ ム 面河ダム 総貯水量28,300千 ³ 、有効貯水量26,800千 ³
	放水導水施設 放水導水路 総延長12.9km
農業専用施設	道 前 平 野 道後導水路 総延長 5.4km
	北部幹線用水路 延 長12.7km
	中山川取水堰
	道前幹線用水路
	道前左岸幹線用水路
	道前右岸幹線用水路 総延長26.6km
	道 後 平 野 道後北部幹線用水路
	道後南部幹線用水路
	道後南部赤坂線
	横谷調整池
計	通谷調整池 総延長26.7km
	総延長53.3km



面河ダム竣工
（昭和39年4月撮影）

国営かんがい排水事業「道前道後平野地区」（H元～H22）

旧事業で造成された面河ダムや幹線水路、取水施設等の老朽化した施設を改修し、従前の機能を確保するとともに、志河川ダム、佐古ダムを新設し、冬期用水と新規受益地のかんがい用水を確保して、農業用水の安定的な供給を図るために、平成元年度に国営かんがい排水事業「道前道後平野地区」が着工しました。

（１）施設の改修（施設の老朽化）

●サイホン、トンネルの現況



道後南部幹線水路（久谷サイホン）
石綿セメント管破裂（撮影S54）



道後南部幹線水路（表川サイホン）
RC管継ぎ目から漏水し国道11号線へ流出（撮影S63）



道後導水路
トンネルアーチ部に亀裂（撮影H14）



旧事業の施設完成後20～30年以上経過し、老朽化が著しくなり管理に支障が生じたため、施設改修を行いました。

●開水路の改修（道後北部幹線）



施工前



施工中



施工後

開水路に蓋を設置し、上部を管理用道路として計画

●サイホンの改修（道前右岸幹線、道前左岸幹線）



開削工法によるサイホンの改修



新工法（巻き込み鋼管）による改修



●トンネルの改修（道後導水路）



バイパストンネル掘削立坑



道後導水路工事 完成

●トンネルの補修（道後南部幹線）



亀裂補修完成

(2) ダムの新設（水需要の変化）

旧事業の計画から約40年が経過し、その間に農業情勢等も大きく変化しました。



ほ場整備施工前



水田の裏作用水や新規に用水供給を求める要望が増加しました。



ほ場整備施工後



志河川ダム、佐古ダムの新たな水源開発を行いました。

志河川ダム



佐古ダム



ダム諸元

位 置	愛媛県西条市丹原町志河	堤頂標高	EL 138.2m
河 川	二級河川中山水系志河川	満 水 位	EL 133.7m
基礎岩盤	三波川変成帯緑色片岩、 黒色片岩	流域面積	17.2km ²
		満水面積	0.1km ²
ダム形式	重力式コンクリートダム	かんがい面積	1,276ha
堤 高	48.2m	総貯水量	1,300千m ³
堤 頂 長	117.0m	有効貯水量	960千m ³
堤 頂 幅	4.8m	利用貯水量	1,900千m ³
堤 体 積	60千m ³	最大取水量	0.417m ³ /s

ダム諸元

位 置	愛媛県東温市下林	流域面積	4.1km ²
河 川	一級河川重信川水系佐川川	満水面積	0.1km ²
基礎岩盤	砂岩・頁岩互層	かんがい面積	1,174ha
ダム形式	重力式コンクリートダム	総貯水量	1,110千m ³
堤 高	31.0m	有効貯水量	1,020千m ³
堤 頂 長	210.0m		(旧佐古池 容量308.5千m ³)
堤 頂 幅	4.0m	利用貯水量	840千m ³
堤 体 積	63千m ³	最大取水量	0.222m ³ /s
堤頂標高	EL 147.0m		
満 水 位	EL 144.1m		

国営かんがい排水事業「道前道後平野地区」の概要図

